

市川市学校教育ビジョン

～EX（エデュケーショナル・トランスフォーメーション）
変革する学校教育の姿～

令和6年3月

市川市学校教育ビジョンプロジェクト

明治5(1872)年に学制が公布され日本で近代教育制度が始まってから150年、ICTの推進やコロナ禍などを背景としてこれまで想定し得ない様々な変革が学校教育に起こりつつあります。

この学校教育の変革【EX（エデュケーショナル・トランスフォーメーション）※】は学校現場に、「新たな教育方法の導入」「社会変化への対応力の向上」「学校経営基盤の強化」「校務の効率化」など、新たな価値を創出するといわれています。

このような中で国は、この変革への道筋として必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させた『令和の日本型学校教育の構築』やEdTechを活用した『未来の教室ビジョン』を示しました。

一方、教育現場に目を向けると、不登校や障がい、外国籍などの多様な背景を持つ子どもの増加、グローバル化など、子どもや保護者のニーズが複雑化・多様化する中で、学校に求められる業務が増大し、教職員は『令和の日本型学校教育の構築』や『未来の教室ビジョン』の内容を理解し、その実現に向けてどのように取り組めばよいか、考える時間を設けること自体が難しい状況にあります。

また、10年後あるいはその先の学校教育がどのように変わっていくのかを想像しながらも、明確な道筋が見えず、多くの教職員が大きく前に踏み出せない状況もあります。

このような教育現場の現状を変えなければ、学校教育の変革を進めることは容易ではありません。

学校教育の変革を進めるためには学校教育の将来進むべき姿を教職員、地域、保護者、教育委員会など（以下「学校関係者」という。）が共有し、それを実現するための役割や行動を理解することで、固定観念や考え方を変えていくことが必要であると考えます。

この『市川市学校教育ビジョン』によって学校関係者が前向きに新しい時代の学校教育を想像し、その構築に向けて主体的に動き出すことで、EX（エデュケーショナル・トランスフォーメーション）を実現するのは、私たち一人一人です。

令和6年3月
市川市学校教育ビジョンプロジェクト

※ 本プロジェクトで作成した造語です。

策定の背景

令和 12（2030）年の社会と子どもたちの未来を見据え小学校では令和 2（2020）年度、中学校では令和 3（2021）年度から新たな学習指導要領が全面実施されました。

また、学校現場では新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響、GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末や通信ネットワーク環境の整備をはじめとした学校のデジタル化の推進などにより、これまで想像し得なかったような変化が生じています。

国が示す『令和の日本型学校教育の構築』や『未来の教室ビジョン』といった新しい時代に求められる学校教育の方向性を踏まえると本市の学校教育には、学習指導要領を着実に実施しつつ、社会の構造的変化やテクノロジーの進化等に学校現場が適切に対応しながら、これまでの日本型学校教育の蓄積を活かし、それをさらに進化させることで、令和の日本型学校教育を構築していくことが求められています。

そのためには現在の学校教育の姿と 10 年後の学校教育の姿を学校関係者が共有し、変革を促す取組を一体となって進めることが重要です。

そこで、学校関係者が 10 年後の授業や教育課程、教職員の業務、地域等と学校の関わりといった変革する学校教育の姿を共有し、その実現に向け授業改革や業務の改善、計画的な予算の確保など、将来を見据えた取組につなげることを目的に本ビジョンを策定することとしました。

なお、本ビジョンは現時点での情報や条件等を整理したものであり、社会の変化や技術革新等の状況を踏まえ、様々な方々の意見をもとに、適宜見直しを行っていくこととします。

ビジョンの構成

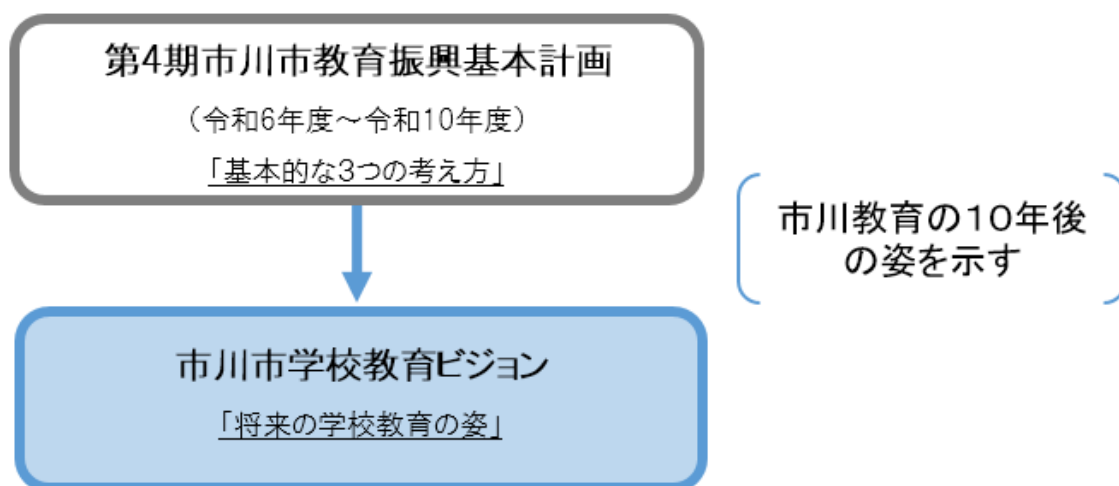
本ビジョンは、新しい時代に求められる学校教育に関するキーワードを体系化するとともに、イメージ作成のルール等を整理した「変革する学校教育の姿＜導入編＞」と学校教育の姿をイメージ化した「変革する学校教育の姿＜本編＞」、策定の体制や経緯を整理した「資料編」で構成します。

ビジョンの位置付け

本市教育委員会では、令和 5（2023）年度に『市川市教育振興基本計画（第 4 期）』を策定しました。

その中で、「子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進」や「学びの質の向上と学びの保障の実現」、「ともに支え合う学びの環境整備」という教育に関する基本的な 3 つの考え方を定めています。

これらを踏まえた将来の学校教育の姿を示すものとして、本ビジョンを策定します。



目 次

1 変革する学校教育の姿＜導入編＞	・・・・・・・・・・	P1
1－1 新しい時代の学校教育	・・・・・・・・・・	P3
1. 国の動向	・・・・・・・・・・	P4
2. キーワードの体系化	・・・・・・・・・・	P5
1－2 10年後の学校教育の姿を示すにあたり（条件整理）	・・・・・・・・・・	P7
1. 方向性の明確化	・・・・・・・・・・	P8
2. KPI（重要業績評価指標）の設定	・・・・・・・・・・	P10
3. イメージ化の条件設定	・・・・・・・・・・	P12
4. 10年後の学校教育の姿の示し方	・・・・・・・・・・	P14
2 変革する学校教育の姿＜本編＞	・・・・・・・・・・	P15
2－1 授業での学び（子どもの視点）	・・・・・・・・・・	P17
1. デジタル／アナログ	・・・・・・・・・・	P18
2. 修得主義／履修主義	・・・・・・・・・・	P20
3. 少人数指導／一斉指導	・・・・・・・・・・	P22
4. オンライン指導／対面指導	・・・・・・・・・・	P24
5. 学習の個性化・指導の個別化／画一的指導	・・・・・・・・・・	P26
6. インクルーシブ教育・特別支援教育	・・・・・・・・・・	P29
2－2 業務（教職員の視点）	・・・・・・・・・・	P31
1. 部活動の地域移行	・・・・・・・・・・	P32
2. 教員の専門性	・・・・・・・・・・	P33
3. 教科担任制の導入	・・・・・・・・・・	P34
4. チーム学校としての組織体制	・・・・・・・・・・	P35
5. 業務の明確化・適正化	・・・・・・・・・・	P36
6. 連携・分担による学校マネジメント	・・・・・・・・・・	P37
2－3 学校との関わり（地域・保護者の視点）	・・・・・・・・・・	P39
1. 子どもと地域が関わる機会の創出	・・・・・・・・・・	P40
2. 教職員の地域に対する意識の醸成	・・・・・・・・・・	P41
3. 地域・保護者の学校への協力	・・・・・・・・・・	P42
4. 学校施設の複合化	・・・・・・・・・・	P43
2－4 教育課程	・・・・・・・・・・	P45
1. 10年後の教育課程	・・・・・・・・・・	P46

1 変革する学校教育の姿

＜導入編＞

1 - 1 新しい時代の学校教育

1. 国の動向

Society 5.0 時代の到来や新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより社会の構造が急激に変化する中で、国ではそれにふさわしい学校教育の役割や在り方、社会に対応した人材育成などについて議論が行われています。

国は現在、『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』という主に 2 つの新しい時代の学校教育の方向性を示しています。

（１）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中央教育審議会答申）

これまで日本型学校教育が果たしてきた役割を継承しつつ、学校における働き方改革や GIGA スクール構想を強力に推進するとともに新学習指導要領を着実に実施し、学校教育を社会に開かれたものとしていくこととしています。

また、文部科学省をはじめとする関係府省及び教育委員会、首長部局、教職員、さらには家庭、地域等を含め、学校教育を支えるすべての関係者が、それぞれの役割を果たし互いにしっかりと連携することで、「令和の日本型学校教育」の実現に向けた必要な改革を果敢に進めていくこととしています。

（２）未来の教室ビジョン（経済産業省「未来の教室」EdTech 研究会 第 2 次提言）

デジタル技術を活用した革新的な教育技法である EdTech を活用し、これまで空間的、制度的に、そしてなにより人々の意識の中で限定的に捉えられてきた「教室」のイメージを払拭し、インターネットで世界に繋がる社会に広く開かれた、「未来の教室」に向けた取組を段階的に進めていくこととしています。

そして、最終的には行政や学校、地域、産業界を含めた社会全体がビジョンのもと、学習環境全体を一新していく一体的変化を目指していくこととしています。

2. キーワードの体系化

10年後の学校教育の姿を示すにあたっては、国が示す新しい時代に求められる学校教育の方向性と合致していることと、一部分ではなく全体を網羅していることが重要です。

そこで、『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』から新しい時代の学校教育に関係するキーワードを抽出し、特に関連性の高い学校関係者を「学校に関わる対象」として設定することとします。

そして、それらを起点として、抽出したキーワードを「市川市が目指す学校教育の方向性」や「方向性を具現化する方策」、「環境整備」に体系化することで、10年後の学校教育の姿につなげていきます。

<体系化の手順>

- ① 『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』において、特に関連性の高い学校関係者を「学校に関わる対象」として設定します。
- ② 『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』から抽出したキーワードを体系化します。

（1）学校に関わる対象

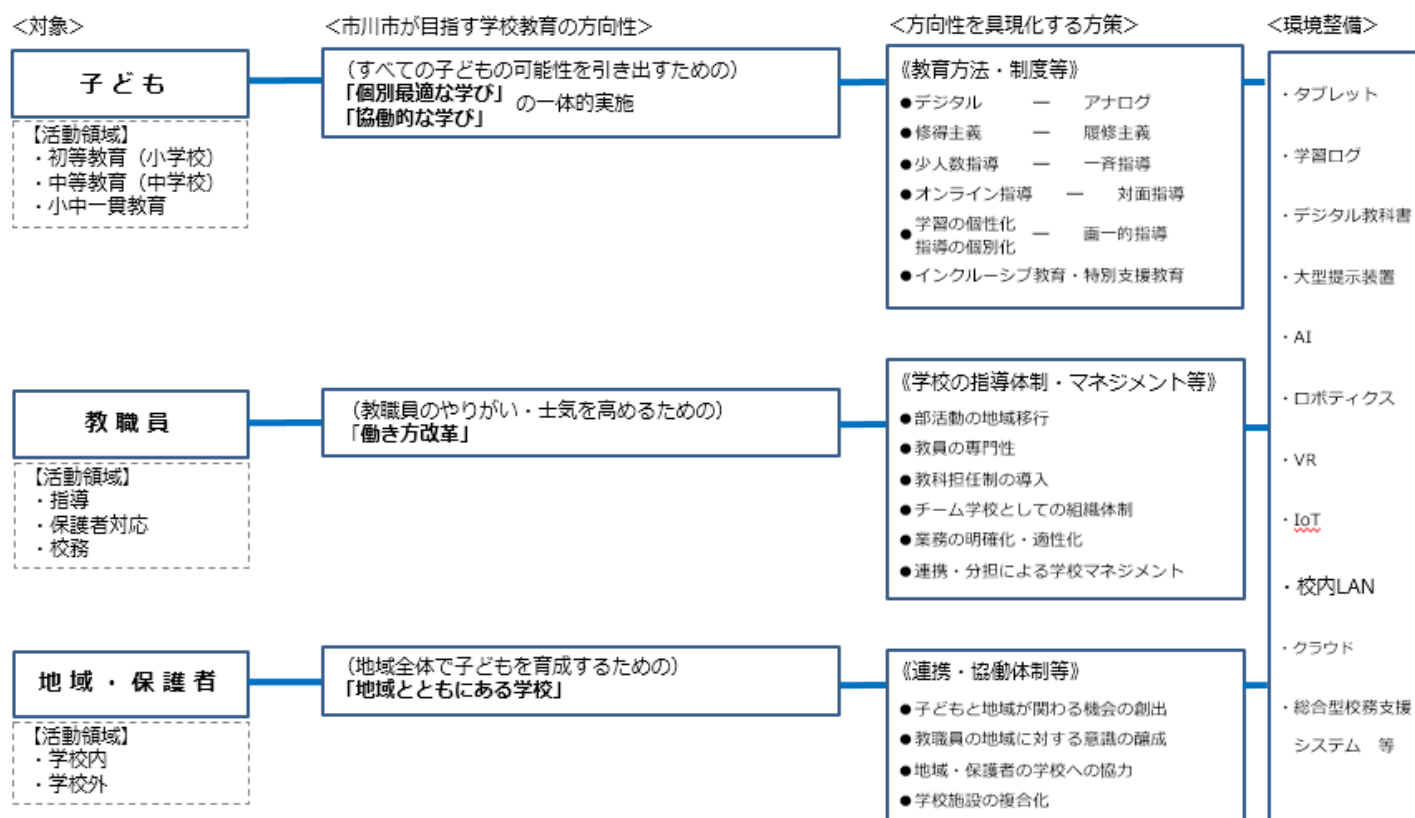
『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』において、特に関連性の高い学校関係者である「子ども」、「教職員」、「地域・保護者」を学校に関わる対象とします。



(2) 体系化

『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』で示された新しい時代の学校教育に関係するキーワードを体系化します。

なお、対象ごとに想定される学校教育の方向性は多岐にわたるとともに重複するものもありますが、体系化にあたっては、『令和の日本型学校教育の構築』と『未来の教室ビジョン』を踏まえ、対象に対して特に重要度や関係性の高いものを紐づけることとします。



1 - 2 1 0年後の学校教育の姿を示すにあたり
(条件整理)

1. 方向性の明確化

市川市が目指す学校教育の方向性の実現に向けて方策が実効的に行われるためには、方向性として示した「個別最適な学び」「協働的な学び」「働き方改革」「地域とともにある学校」とは、どのようなものなのかを明らかにすることが重要です。

そこで、中央教育審議会における『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』の審議状況を考慮しながら策定した『市川市学校環境基本計画』で定める「市川市が目指す学校教育／新しい時代に求められる学校教育の在り方」を踏まえ、10年後の学校教育の姿を示します。

(1) 市川市学校環境基本計画 (市川市が目指す学校教育／新しい時代に求められる学校教育の在り方)

- ①多様な人との関わりを大切にして、個人の自立を促すとともに、社会の一員としての自覚を養う教育
 - 多様な学び手のニーズに応じた教育
 - 特別な教育ニーズに応じた教育
- ②一人一人が、主体的に学び個性を伸ばし可能性を広げることのできる教育
 - 個に応じた学びの充実
 - 協働的な学びの充実
 - 調和のとれた学びの充実
- ③学びと育ちの連続性と社会との連携を強化し、豊かな人間性を育む教育
 - 学びと育ちの連続性を大切にした教育
 - 社会との連携を大切にした教育

(2) 市川市が目指す学校教育の方向性

子 ども

▶ 個別最適な学び

子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じた指導を行う「指導の個別化」や、子どもの興味関心等を踏まえ一人一人に応じた学習活動や学習課題を提供する「学習の個性化」を行う教育。

▶ 協働的な学び

現実空間や ICT を活用した仮想空間において、お互いの考えを出し合い認め合うグループ活動によって、より良い考えを導き出す教育。

教 職 員

▶ 働き方改革

教育活動に全力投球できる環境を整え、適切なワークライフマネジメントを行うことにより、日々の生活の中で仕事のやりがいと充実感を得られるようにすること。

地 域 ・ 保 護 者

▶ 地域とともにある学校

地域全体で子どもに必要な資質・能力を育むとともに、地域や保護者、学校など多様な主体が連携し、学校を核としたまちづくりを行うこと。

2. KPI（重要業績評価指標）の設定

10年後の学校教育の姿を促進するため、「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「働き方改革」、「地域とともにある学校」の4つの方向性の成果を評価する指標【KPI】を設定します。

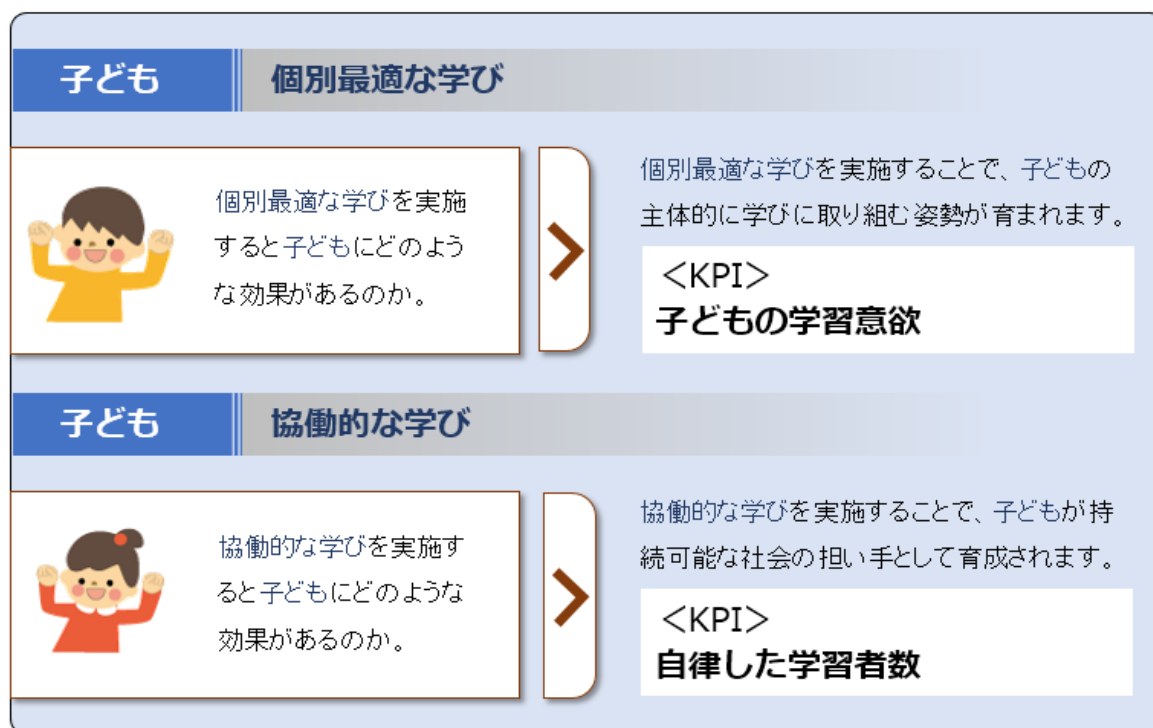
これにより、姿の軸が定まり、一定のルールに基づき10年後の学校教育の姿を示すことができるようになります。また、客観性も高まります。

※KPIとは

取組の成果を評価する上で用いている指標の中で特に重要なものであり、本ビジョンでは、10年後の学校教育の姿を具現化するために活用します。

KPIの設定方法

市川市が目指す学校教育の方向性が対象に与える効果のうち、最も重要なものをKPIとして設定します。



○子どもの学習意欲の指標

- ・調査対象学年の児童・生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか。

○自立した学習者数の指標

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- ・授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。
- ・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

教職員	働き方改革
 働き方改革が実現すると教職員にどのような効果があるのか。	働き方改革を実現することで、教職員の公私のバランスが最適化されます。 <KPI> 教職員の時間的余裕

○教職員の時間的余裕の指標

- ・「子どもとじっくり向き合うことができていると思う」と回答する教職員の割合

地域・保護者	地域とともにある学校
 地域とともにある学校が実現すると地域・保護者にどのような効果があるのか。	地域とともにある学校を実現することで、地域・保護者の学校への関わりが深まります。 <KPI> 地域・保護者の学校への理解度

○地域・保護者の学校への理解度の指標

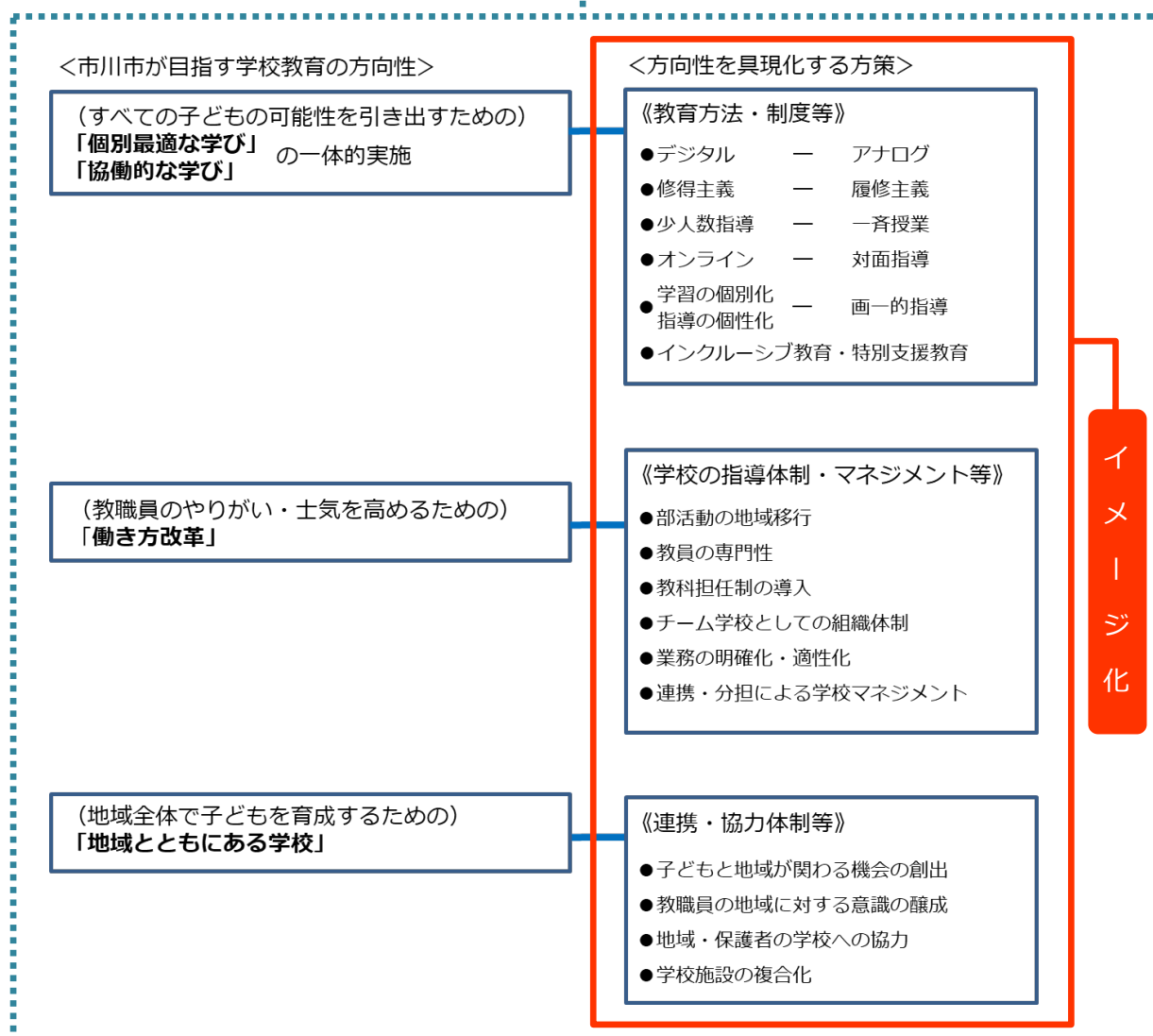
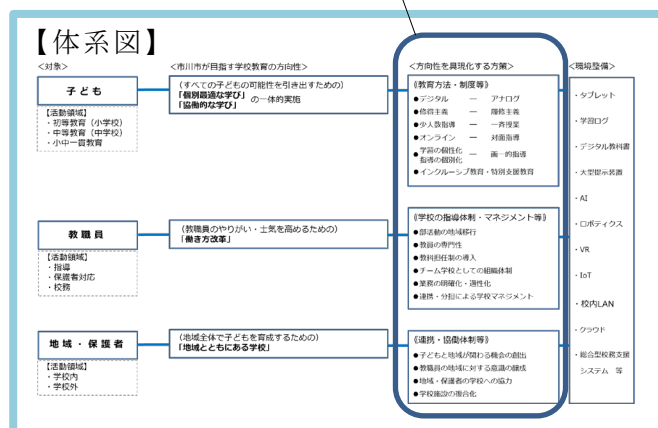
- ・「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」と回答する学校の割合

3. イメージ化の条件設定

(1) イメージ範囲の設定

イメージを行う範囲は、体系図中の「方向性を具現化する方策」とします。

「方向性を具現化する方策」の全項目を取り扱うことで、体系的なイメージ化を実現します。



(2) 場面の設定

対象ごとに10年後の学校教育の姿を示す場面を設定します。

- 「子ども」・・・・・・・・授業での学び
- 「教職員」・・・・・・・・教職員の業務
- 「地域・保護者」・・・・地域・保護者と学校との関わり方

<場面設定>

子ども

現在及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」を
一体的に実施した10年後の「授業での学び」の姿



教職員

現在及び「働き方を改革」が実現した10年後の
「教職員の業務」の姿



地域・保護者

現在及び「地域とともにある学校」が実現した10年
後の「地域・保護者と学校との関わり方」の姿



4. 10年後の学校教育の姿の示し方

10年後の学校教育の姿は、以下の流れで示します。

<流れ>

- ① 「方向性を具現化する方策」を設定し、方策について定義します。
- ② 方策に対する現在の状況を示します。
- ③ KPI の達成を意識して「市川市が目指す学校教育の方向性」の実施・実現を進めます。
- ④ 「市川市が目指す学校教育の方向性」を実施・実現した 10 年後の「方向性を具現化する方策」の姿を示します。

<10 年後の学校教育の姿の例>

- 方 策・・・デジタル
- 方向性・・・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的実施
- K P I・・・（個別最適）子どものやる気、（協働的）子どもの創造性

①

デジタル

授業等で大型提示装置やタブレットなどの ICT を活用すること。

②

現在のデジタルを活用した授業

教員の指示の下で、子どもが ICT 機器を操作しながら、学習を進めている。

（教員によって、ICT の活用力に差があり、すべての学校で最大限に ICT を活用できていない状況もある。）

③

【子どもの学習意欲】

UP↑

【子どもの自律した学習者数】

④

10 年後のデジタルを活用した授業

（個別最適な学び）

情報収集や整理分析といったデジタルのメリットが得られる学習内容が厳選され、その内容に対して、ICT の活用が促進することで反転学習や AI ドリルの活用など、効果的、効率的に学習を進めている。

子どもが興味関心等のある内容について、ICT 機器を主体的に使い学習している。

（協働的な学び）

ICT を活用し、グループでイメージの具現化や共有化を図り、自由な発想や探究心を促すことで、創造力を養う学習を行っている。

一体的実施

2 変革する学校教育の姿

＜本編＞

2 - 1 授業での学び（子どもの視点）

※実際の授業は、「授業での学び（子どもの視点）」で整理した各項目が複合的に作用し合いながら、行われていくこととなります。

1. デジタル／アナログ

デジタル

授業等で大型提示装置やタブレットなどの ICT を活用すること。

現在の**デジタル**を活用した授業

教員の指示の下で、子どもが ICT 機器を操作しながら、学習を進めている。

(教員によって、ICT の活用力に差があり、すべての学校で最大限に ICT を活用できていない状況もある。)

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10 年後の**デジタル**を活用した授業

(個別最適な学び)

情報収集や整理分析といったデジタルのメリットが得られる学習内容が厳選され、その内容に対して、ICT の活用が促進することで反転学習や AI ドリルの活用など、効果的、効率的に学習を進めている。
子どもが興味関心等のある内容について、ICT 機器を主体的に使い学習している。

(協働的な学び)

ICT を活用し、グループでイメージの具現化や共有化を図り、自由な発想や探究心を促すことで、創造力を養う学習を行っている。

一体的実施

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AI ドリル (理解度に応じた問題を表示する等の機能を持ったドリル)、3D プリンター、CBT (コンピューター上での試験方式)、AR (拡張現実)、VR (仮想現実)、クラウド (ネットワークを介して、情報やサービスを提供する形態)、学習ログ、教育ダッシュボード (学習者の様々なデータを集約、可視化するシステム)、協働学習支援ツール (タブレットを活用し、協働学習が行えるソフトウェア) など

1. デジタル／アナログ

アナログ

対面指導や授業等で教科書、図書資料、教具などの具体物等を使用すること。

現在の**アナログ**を活用した授業

授業等で教員から対面で指導を受け、学習を進めている。

GIGA スクール構想により、デジタル化が進んできているものの、多くの教科等で具体物等が使用されている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10年後の**アナログ**を活用した授業

(個別最適な学び)

人間力の育成や学力の定着を必要とする学習内容が厳選され、その内容について、対面指導や具体物等を活用することで、定着度の高い学習を行っている。教師による適切な教材提示や指導助言など、教師のファシリテーター的役割が多くなる。



(協働的な学び)

一斉授業で子ども同士が同じ学習内容を共有した上で、学習進度等を踏まえたグループを編成し、グループワーク等でアナログ教材を用いることで、実感的な学習を行っている。

先端技術の活用による環境整備

クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、協働学習支援ツール

など

2. 修得主義／履修主義

修得主義

一定の学習成果の到達を目指すこと。

..... 現在の**修得主義の考え方**による授業

共通の学習内容の中で、個々の学習状況や理解度、技能に応じて課題を選び、取り組んでいる。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

..... 10年後の**修得主義の考え方**による授業

(個別最適な学び)

学習ログ等を活用し、学習状況の見える化を図り、それを教員が把握することで、子どもがそれぞれの学習進度等に応じたアドバイス（支援）を受け、学習を進めている。

一体的実施

(協働的な学び)

学習進度や到達度等に応じたグループを編成し、学び合いや高め合いなどの協働活動によって、グループ全体で学習の到達度を高めている。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、AOS（興味関心領域等を蓄積し、結果を自動的に図示化するシステム）、センシング（脈や体動などからAIによる感情分析を行う技術）、協働学習支援ツール など

2. 修得主義／履修主義

履修主義

一定年限の間に所定の教育課程を履修すること。

..... 現在の**履修主義の考え方**による授業

所定の教育課程を、学校によって決められた授業時数や期間の中で学習している。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

..... 10年後の**履修主義の考え方**による授業

(個別最適な学び)

履修の必要性の高い基礎的な学習内容が厳選され、その内容について、一定年限の間に必要な授業数を履修している。



(協働的な学び)

グループでの達成感や一体感の経験が子どもにとって必要と考えられる学習内容について、グループで学習サイクルや年間計画を共有し、同じ学習内容を履修している。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、クラウド、教育ダッシュボード、協働学習支援ツール

など

3. 少人数指導／一斉指導

少人数指導

少人数のグループを編成して行う指導や1つの学級に複数の教員を配置して行う指導のこと。

現在の少人数指導による授業

小学校では、算数科を中心に低学年はチームティーチング、高学年は学習進度等に応じて編成した少人数のグループで指導を受け、学習を進めている。

中学校では、チームティーチングや少人数で編成したグループで指導を受け、学習を進めている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10年後の少人数指導による授業

(個別最適な学び)

小、中学校ともに複数の教科で子ども自身が自分の習熟度や興味関心等に合わせて、学習を進めている。

学習進度等に応じた補習的な学習に加え、子どもの特性も踏まえた発展的な学習を行っている。



(協働的な学び)

少人数指導コースにおいて、子ども同士が学び合いや高め合いなどの協働活動を行うことによって、互いに高め合いながら、学びを深め、広げている。学級や学年を超えたグループによる学習が進んでいる。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AIドリル、CBT、クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、AOS、センシング、協働学習支援ツール など

3. 少人数指導／一斉指導

一斉授業

教員が学級全体に対して指導を行う授業のこと。

現在の**一斉指導**

原則一人の教員から学級全体が共通の指導を受け、学習を進めている。教科等によっては、チームティーチングが行われている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10年後の**一斉指導**

(個別最適な学び)

一定水準の理解度や到達度が求められる基礎的な学習内容が厳選され、学級（学年）全体で共通の学習を進めながら、個々の課題に取り組んでいる。



(協働的な学び)

学んだ学習内容について、グループで子ども同士が意見交換等を行い、多様な考えに触れることによって、学びを深め、広げている。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、クラウド、協働学習支援ツール

など

4. オンライン指導／対面指導

オンライン指導

学習用端末（タブレット等）がネットワークに接続され、どこにいても、すべての子どもにグローバルで革新的な可能性を引き出す環境のこと。

現在のオンライン指導

GIGA スクール構想によって、学習用端末（タブレット等）のネットワークの接続は確立しており、これを活用して、教員が選んだ外部の教材を子どもが使用している。

また、子どもが学習用端末（タブレット等）を使い、教員に課題の提出などを行っている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10年後のオンライン指導

（個別最適な学び）

子どもは複数の教材（クラウドアプリケーション等）から自分に最適なものを選択している。教員は子ども一人一人の特性や学習進度、興味関心等を把握し、助言をしている。



（協働的な学び）

ICT を活用し、学習内容を子ども同士で共有するとともに、どこにいても外部（遠隔地の学校、専門家、地域、海外等）とネットワークでつながり、多様な考え、文化に触れることによって学びを深め、広げている。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AI ドリル、CBT、AR、VR、クラウド、学習ログ、
教育ダッシュボード、AOS、センシング、協働学習支援ツール

など

4. オンライン指導／対面指導

対面指導

教室などの同じ空間で教員と子どもや子ども同士と一緒に学ぶこと。

現在の**対面指導**による授業

教室という同一空間において、教員と子どもが十分なコミュニケーションを取りながら、学習を進めている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10年後の**対面指導**による授業

(個別最適な学び)

対面での観察やICTの活用などによって、子ども一人一人の特性や学習進度、興味関心等を教員が把握し、個に応じた助言をしている。

×
一体的実施

(協働的な学び)

同一空間における他者とのコミュニケーションによって、高い教育効果が得られる学習内容について、グループワーク等を行っている。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AIドリル、CBT、クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、AOS、センシング、協働学習支援ツール など

5. 学習の個性化・指導の個別化／画一的指導

学習の個性化

子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に合った学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習を最適となるよう調整すること。

..... 現在の**学習の個性化**による授業

学級や学年全体で共通の指導を受けた後、教員がいくつかテーマを設定し、子どもは、その中から選んだテーマについて調べ、まとめている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

..... 10年後の**学習の個性化**による授業

(個別最適な学び)

学級や学年全体で共通の指導を受けた後、子ども一人一人が自分の興味関心を持ったテーマについて課題を設定して自ら調べることで、学びを深めている。

×
一体的実施

(協働的な学び)

自分の興味関心等のあるテーマを調べ、まとめたものを、グループで共有し、意見交換等を行い、多様な考えに触れることによって、学びを深め、広げている。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AIドリル、CBT、AR、VR、クラウド、学習ログ、
教育ダッシュボード、AOS、センシング、協働学習支援ツール

など

5. 学習の個性化・指導の個別化／画一的指導

指導の個別化

子ども一人一人の特性や学習進度等に応じて、指導方法や教材等の柔軟な提供、設定を行うこと。

..... 現在の**指導の個別化**による授業

学級全体が共通の指導を受けた後、子ども一人一人の特性や学習進度等を教員が把握し、復習を必要とする子どもに対して課題を与えるなどの個別指導をして学習を進めている。その際、一部 I C T（ドリルなど）を活用している。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

..... 10年後の**指導の個別化**による授業

（個別最適な学び）

子ども一人一人の特性や学習進度等を教員が把握し、複数の教材等の中から子どもにあった教材等を教員が選んだり、子ども自身が探したりして、すべての子どもが主体的に学習を進めている。

×
一 体 的 実 施

（協働的な学び）

個別最適な学びにおける指導状況を踏まえ、他者と理解し合ったり、共感し合ったりすることで、高い教育効果が得られる学習内容について、グループを編成し、意見交換等を行い、多様な考えに触れることによって、学びを深め、広げている。

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AIドリル、CBT、AR、VR、クラウド、学習ログ、
教育ダッシュボード、AOS、センシング、協働学習支援ツール

など

5. 学習の個性化・指導の個別化／画一的指導

画一的指導

学力に差が出ないように、すべての子どもに同じ学習内容を指導すること。

現在の**画一的指導**による授業

学習指導要領によって、単元ごとに、学習すべき内容や授業の展開が決まっており、学級全体が共通の指導を受け、学習を進めている。

また、学習進度等に応じて、補習的な学習を行っている。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

10年後の**画一的指導**による授業

(個別最適な学び)

一定水準の理解度や到達度が求められる基礎的な学習内容が厳選され、その内容について、学級全体が共通の指導を受け、学習を進めている。

学習進度等に応じた補習的な学習に加え、子どもの特性も踏まえた発展的な授業又は指導を行っている。

(協働的な学び)

基礎的な学習内容について、学級全体が共通の指導を受けた後、学習進度等に応じたグループを編成し、子ども同士が学び合いや協力などの共同活動によって、学力を高め合っている。

一体的実施

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AIドリル、CBT、クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、AOS、センシング、協働学習支援ツール など

6. インクルーシブ教育・特別支援教育

インクルーシブ教育・特別支援教育

障がいのある者が自らの能力を可能な限り発揮し、自由な社会に効果的に参加できる共生社会の形成に向け、障がいのない者と共に学ぶ仕組みのこと。その実現のために、特別支援教育の充実と推進が必要。

..... 現在のインクルーシブ教育・特別支援教育

子ども一人一人の発達特性や学び方を理解し、個別の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行うために、個別の指導計画と市川スマイルプランを作成している。通常学級と特別支援学級、特別支援学校の子どもが、校内や学校間、居住地の学校で交流及び共同学習に取り組んでいる。

[子どもの学習意欲]
UP↑
[子どもの自律した学習者数]

..... 10年後のインクルーシブ教育・特別支援教育

(個別最適な学び)

すべての学校に、特別支援学級、通級指導教室を設置し、特別支援学校を含めた連続性のある多様な学びの場を用意することで、どの子ども地域の学校で学び、力を発揮することができる環境が整備されている。

個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮を提供することで、一人一人の学び方が保障されるとともに、1日のスケジュールに合わせて学びの場を柔軟に選択するなど、個に応じた学びが可能となっている。【自己選択の実現】

一体的実施

(協働的な学び)

環境整備や教員の専門性の向上、ICTの活用などにより、時間や空間を共有しながら学級や学校間、地域との交流及び共同学習が、ごく自然に日々の生活の中で行われている。【自己選択の実現】

先端技術の活用による環境整備

デジタル教科書・教材、AR、VR、クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、AOS、センシング、教育メタバース（インターネット上に構成された仮想空間でのアバターを介した学習等）、協働学習支援ツール など

2 -2 業務（教職員の視点）

1. 部活動の地域移行

部活動の地域移行

学校が運営する部活動から、すべての学校で地域が運営する地域クラブ活動へ移行する。

..... 現在の部活動の地域移行

中学校及び義務教育学校等の部活動において、放課後や休日に教員が指導を行っている。

教職員の時間的余裕 UP↗

..... 10年後の部活動の地域移行

地域が運営主体となり、地域の方やその活動に長けた専門の指導者等が子どもを指導している。

地域クラブ活動の指導を積極的に行いたい教員は、自分が生活している地域で、兼職・兼業の許可を得て、自発的に指導を行っている。

2. 教員の専門性

教員の専門性

教育愛や熱意、使命感に基づく基本的・人間的資質、教科指導や生徒指導など子どもの指導に直接関わる実践的指導力及び学級経営、学年経営などにおける経営能力等のこと。

現在の教員の専門性

必要な専門性を身に付けるため、教員に対し、定期的に研修やOJTを行っている。
教員に必要とされる資質能力が多岐に渡っており、それに対応するために教員の負担が大きくなっている。

教職員の時間的余裕 UP↑

10年後の教員の専門性

教員の情報活用能力が向上し、ICT活用指導力が高まっている。
必要な専門性が精選され、教員に対し、それぞれのニーズに応じた研修やOJTを行っている。
教員としての総合的な能力の向上に加え社会の雇用形態（メンバーシップ型からジョブ型へ）の変化に伴い、教科指導や生徒指導、教育相談といった得意分野の専門性も高めている。

3. 教科担任制の導入

教科担任制の導入

一人の教員が専門教科を受け持ち、複数の学級で授業を行う指導法のこと。

現在の教科担任制の導入

(小学校)

学級担任制を基本としながら、一部の学校及び教科で専科教員を配置し、教科担任制を行っている。また、学年内での交換授業を実施している。

(中学校)

原則、教科担任制を実施している。一部、臨時免許状の交付を受け、指導することもある。道徳、学活、総合的な学習は、担任が授業を行っている。

教職員の時間的余裕 UP↗

10年後の教科担任制の導入

(小学校)

学級担任制を継続しつつ、すべての学校に専科教員が配置され、専門性の高い教科で教科担任制を行っている。

(中学校)

総合的な学習において、探究的で教科横断的な学習を実施するため、専科教員が配置されている。

この実践により、他の教科間の連携も進んでいる。

4. チーム学校としての組織体制

チーム学校としての組織体制

校長のリーダーシップの下、学校の教育目標や課題解決に向けて組織的に対応する体制のこと。

..... 現在の**チーム学校としての組織体制**

一人の教員が多くの役割を担っており、個々の教員が個別又は学年や教科等のグループ単位で学級経営や教育活動、保護者対応などを行っている。

教職員の時間的余裕 UP↑

..... 10年後の**チーム学校としての組織体制**

教科担任制を推進するための専科教員の配置やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、専門的な業務を担う職員が配置されている。外国語専科やプログラミング専科など、専科教員の配置が進んでいる。これにより、学校の教育目標の実現や課題等が生じた際、校長のリーダーシップの下で組織的に対応する体制が整っている。

5. 業務の明確化・適正化

業務の明確化・適正化

学校における業務を洗い出し、業務を明確にした上で、ICTの活用や業務改善、最適な業務分担等により、業務を円滑に進めること。

..... 現在の業務の明確化・適正化

校務分掌と業務実態にズレがあり、実施するすべての業務を把握できていない。

業務の見直しが進まず、重要度の高くない業務も実施されている状況がある。

業務の多くを教職員が学校で実施している。

教職員の時間的余裕 UP↗

..... 10年後の業務の明確化・適正化

業務の洗い出しや業務改善等が定期的に行われ、学校が行うべき必要な業務が精査されている。

ICTの活用により、業務の効率化や多様な働き方が実現している。

その上で、教職員、保護者、地域、行政等にそれぞれの役割と責任に応じた業務が適切に分担されている。

先端技術の活用による環境整備

AIドリル、CBT、クラウド、学習ログ、教育ダッシュボード、AOS、センシング、
統合型校務支援システム（教務系、保健系、学籍系、学校事務系など統合した機能を有するシステム） など

6. 連携・分担による学校マネジメント

連携・分担による学校マネジメント

校内では業務分担が適切に行われるとともに、学校、保護者、地域等がそれぞれの役割を理解し、果たすことで、学校の教育目標を達成していく活動のこと。

現在の連携・分担による学校マネジメント

教職員の役割が大きく、教職員間の業務量にも偏りがみられる。

保護者や地域など、多様な主体の協力・連携が進みつつあるものの、学校が主体となった取組が多くある。

教職員の時間的余裕 UP↑

10年後の連携・分担による学校マネジメント

業務の明確化・適正化が行われた上で、必要な人員配置がなされ、実態に即した校務分掌に基づき、マネジメントが行われている。

開かれた教育課程の実現に向け、地域や保護者など多様な主体が学校に関わり、それぞれの責任と役割の下で、主体的な活動を行うための調整など、必要なマネジメントが行われている。

2 - 3 学校との関わり

(地域・保護者の視点)

1. 子どもと地域が関わる機会の創出

子どもと地域が関わる機会の創出

地域のイベントや活動など、子どもが地域に愛着や関心を持つ場をつくること。

..... 現在の**子どもと地域が関わる機会**

単発の行事への参加や短時間での関わりが多い。

子どもの活動の場が、家庭や学校、習い事など限定的で、子どもの目が地域に向きづらく、地域への愛着や関心が低い。

地域・保護者の学校への理解度 UP↑



..... 10年後の**子どもと地域が関わる機会**

子どもが学習の場として、主体的に地域に出て行き、地域の方は、様々な活動を通じて子どもを育成するため、日常的に校内に入るなど、恒常的な関わりが構築されている。

地域の方が子どもの成長を感じ、子どもが地域の活力となるとともに、子どもが地域で育つことで、地域に愛着を持ち、その地域の担い手として、成長していく。

※市川版コミュニティ・スクールの推進（学校運営協議会、地域学校協働本部）

2. 教職員の地域に対する意識の醸成

教職員の地域に対する意識の醸成

教職員が教育活動の中で、中学校ブロックを単位とした地域に目を向け、地域のイベントや活動に参加し、地域と子どもをつなげる懸け橋となろうとすること。

..... 現在の教職員の地域に対する意識

「子どもの育成に地域が関わってほしい、地域が学校に協力してほしい。」と考えている教職員が多い。

教育の場を学校に限定したり、学校と地域を分けたりして考えるなど、地域も教育の場であるとする考え方を持つことが難しい。

地域・保護者の学校への理解 UP↑

..... 10年後の教職員の地域に対する意識

教職員と地域とが育てたい子ども像を共有している。

教職員と地域の方々が顔の見える関係になることにより、教職員が地域に関心を持ち、「子どもが地域に出て活躍してほしい、地域に対して何か貢献したい」と考えている教職員が多くなっている。

地域も学校と同様に地域の活動も子どもの学習の場であると考え、積極的に様々な活動等に子どもを参加させている。

※市川版コミュニティ・スクールの推進（学校運営協議会、地域学校協働本部）

3. 地域・保護者の学校への協力

地域・保護者の学校への協力

地域や保護者が学校の教育活動を理解し、参画すること。

..... 現在の**地域・保護者の学校への協力**

地域の方や保護者が得意分野を活かし、授業等に協力している。

保護者により、任意で PTA が組織され、学校の教育活動の補助や子どもの見守り等を行っている。

地域・保護者の学校への理解度 UP↑

..... 10 年後の**地域・保護者の学校への協力**

地域の方や保護者が得意分野を活かし、授業等に協力する仕組みや体制が確立し、取組が活発に行われている。

保護者が関わる適切な組織が実現し、保護者が主体的に活動に参加している。

地域の方が活動に参加することで、活動の範囲が広がり、地域づくりなども担う組織として機能している。

4. 学校施設の複合化

学校施設の複合化

地域に開かれた学校施設として、地域住民等が利用する空間を設けること。

..... 現在の**学校施設の複合化**

原則、学校施設は学校教育の用途に利用されている。複合化された学校施設は一部であり、地域の要望等と学校施設に余剰面積がある場合、学校教育以外の用途に利用されている。

地域・保護者の学校への理解度 UP↑



..... 10年後の**学校施設の複合化**

学校が地域の核となる施設として、地域に必要な施設が設置されている。

地域の様々な年代の方が日常的に学校に入ること、学校との関わりや多様な人との関わりが生まれている。

これにより、社会に開かれた教育課程が実現するとともに、学校を中心とした地域づくりが行われている。

2 - 4 教育課程

1. 10年後の教育課程

「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子どもたちに必要な資質・能力を育成するため、以下の取組により「カリキュラム・マネジメント」が推進されます。

① 教科横断的な視点による教育課程の編成

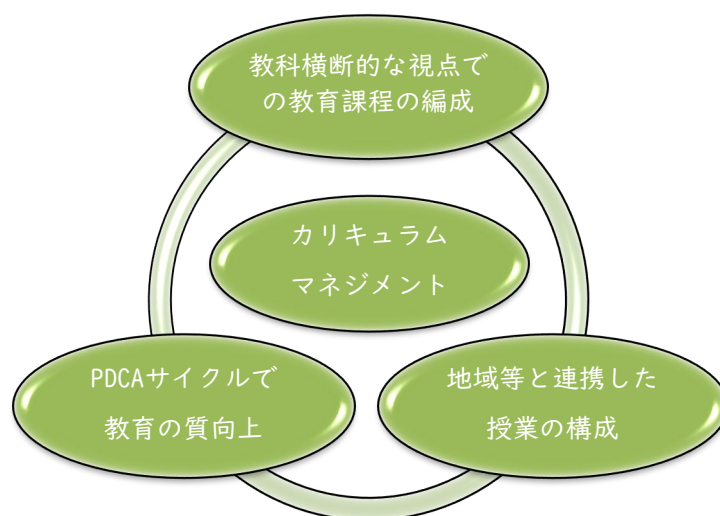
学校の教育目標の達成に必要な教育の内容について、各教科等の教育内容を相互の関係で捉えるとともに、目標を踏まえた教科横断的な視点で、体系的に教育課程を編成します。

② PDCA サイクルによる教育の質の向上

子どもたちの姿や地域の現状などに関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立し、教育内容の質の向上を図ります。

③ 地域等と連携した授業の構成

よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源などについて、学校の内部資源と地域等の外部資源を効果的に組み合わせて授業を編成します。



おわりに

本ビジョンでは、将来進むべき学校教育の姿を学校関係者と共有するため、10年後の「授業での学び」や「教育課程」、「教職員の業務」や「地域等と学校の関わり」についての展望（もしくは一例）を示しました。

社会では、テクノロジーの発展による様々なイノベーションが、社会構造の在り方をこれまでとは「非連続」といえるほど劇的に変えるといわれています。

学校でも近い将来、教員に変わって AI やロボットが授業や業務を行うことで、教員が真に必要な指導等に集中できる環境や、メタバースを活用して授業を行い、学校に行かなくても、時間や場所にとらわれず、学ぶことができる環境が整うなど、遠い将来の夢だと思われていたことが現実となっているかもしれません。

このように社会や学校が大きく変化する時代にあっても、学校教育が目指すところは、誰一人取り残すことなく、すべての子どもが充実感や満足感を持って学びに向かうということを改めて明確にした上で、学校教育に関わる実務を再考することが必要です。

そのためには、学校教育の不易と流行をしっかりと見極め、地に足を付けた取り組みを一步一步進めるとともに、変化を恐れず、柔軟で可変的なマインドを持ちながら、変革を進めていくことが重要です。

子ども達のために、将来の学校教育をどのようなものにしていくのか。学校教育の大きな転換点にあって、その姿をしっかりと示し、それに向けた取組を着実に進めていくことが、我々、学校関係者の務めであると考えます。

本ビジョンをきっかけとして、10年後の、その先の将来に向かって、子どもの夢や希望を育む学校教育を実現できるよう、一丸となって取組を進めていきましょう。

市川市学校教育ビジョン

■発行・編集 令和6年3月 市川市学校教育ビジョンプロジェクト

〒272-8501 市川市南八幡 2-20-2

電話 047-334-1111（代）
